

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：25403

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23401028

研究課題名(和文)ヒバクシャ・コミュニティの国際的連携構築に向けた比較研究

研究課題名(英文)Comparative Research Focused on Establishing International Cooperation between Hibakusha Communities

研究代表者

ロバート ジェイコブズ(JACOBS, Robert)

広島市立大学・付置研究所・准教授

研究者番号：60423969

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,900,000円、(間接経費) 2,370,000円

研究成果の概要(和文)：放射線被ばく健康面への影響に関する知見は多くあるが、本研究は放射線被ばくの社会的・文化的影響について歴史的・比較文化的検証を行った点において、初の研究であると言える。世界各地で放射線に被ばくした人々やその家族、また核実験へ参画した人々などへ数多くの聞き取り調査を実施した。社会的・文化的影響の一端としては、仮設住宅への移住、食生活の変化や制限、宗教や伝統の分裂・崩壊、伝統的知識の途絶などが挙げられる。被ばくの実相は家庭内においても、子や孫の世代へ受け継がれぬまま隠される傾向がみられ、個人、家族、地域社会のあらゆるレベルにおいて社会的・文化的崩壊を招くことが分かった。

研究成果の概要(英文)：People are exposed to radiation in many different ways. We already knew a great deal about the medical effects of radiation exposures to human beings, but this study is the first that examined the social and cultural effects of radiation exposures across cultural boundaries. Working at sites of radiation exposure around the world we gathered numerous oral history interviews with people exposed to ionizing radiation and also sometimes interviewed their family members. We found that radiation exposures created social changes such as: movement into so-called "temporary homes," changes in diets, disruption in religious and ancestral traditions and disruptions in traditional knowledge. We also found that the history of radiation exposures tended to be kept secret between generations in families. Ultimately we found that radiation exposures caused social and cultural disruptions for individuals, families and communities even when there was little radiation related illness.

研究分野：人文学B

科研費の分科・細目：史学一般

キーワード：ヒバクシャ研究 核の植民地主義 ト라우マ研究 核実験 核戦争 放射能の影響 歴史的社会的記憶

1. 研究開始当初の背景

本研究の代表者は広島を拠点に研究活動を行っているため、被爆者（被爆者・被曝者以下ともに、ヒバクシャ）の高齢化による広島・長崎の記憶継承の問題には早くから着目している。広島・長崎への原爆投下から約1年後に被ばくしたマーシャル諸島のヒバクシャなどを例にとっても、被ばく体験を継承できる人々の減少は大きな問題となっている。

また、核実験などによる被ばくの問題を、社会的・文化的負の遺産と捉えた研究は、多くのヒバクシャ・コミュニティではこれまで全く行われてこなかった。既存の研究は、ほぼすべて疫学的なものである。広島・長崎においても状況はさほど変わらないが、社会的・文化的影響に関するいくつかの研究や一般市民を描いた文学や漫画などがある。

本研究では、核実験などにより被ばくした人々の歴史や経験はグローバルな視点から捉えるべきであると考え、調査・検証を行うこととした。何らかの形で社会的・文化的側面に触れた既存の研究においても、世界に散在するヒバクシャ・コミュニティを繋ぐ試みはなされていない。核兵器の拡散や地球規模の核戦争に備えた冷戦が世界中を巻き込むものであったことを考えても、核兵器の製造や核実験の歴史とその影響に関する研究にグローバルな視点が欠かせないことは言を俟たない。

2. 研究の目的

放射線への曝露が病気や死を招く可能性のあることは広く知られている。しかしながら急性障害・晩発性障害の有無に関わらず、放射線への曝露が個人、家族や地域社会に及ぼす広範な影響についてはほとんど知られていない。世界に散在するヒバクシャは核実験が行われる地域に代々居住する人もいれば、兵士や科学者や労働者として核実験に参画した人、ウラン鉱山の所有者、プルトニウム生成に使用される原子力関連施設周辺の住民など多様である。放射線被ばく後の生活環境も様々である。本研究は、世界各地に散在する放射線被害を受けた多数の異なるヒバクシャ・コミュニティにおいて調査・研究活動を実施し、ヒバクシャ・コミュニティの国際的な連携の構築に向けた比較研究を行うことにある。

3. 研究の方法

(1)オーラル・ヒストリー（口述史）聞き取り調査

[調査対象]

- ・核実験・原発事故などにより被ばくした住民やその家族
- ・核実験に参画した退役軍人

・反核運動の関係者

(2)資料収集

- ・核保有国の国立公文書館
- ・関連資料を有する大学の図書館
- ・ヒバクシャ・コミュニティ内の資料館

(3)意見交換

- ・聞き取り調査を実施する地元の大学教諭、及び研究者
- ・ジャーナリスト
- ・関連した研究会への参加者

(4)次世代への継承者の育成

- ・ヒバクシャ・コミュニティの若者を対象に被ばくを後世へ伝えるための指導

(5)国際的連携構築

- ・ヒバクシャ・コミュニティの若者の連携構築のため、スカイプなどを利用した意見交換会を実施
- ・研究者、NGO関係者、ヒバクシャ団体、との連携強化

(6)多様なヒバクシャの歴史的・比較文化的検証

4. 研究成果

以上に述べた方針に基づき行った各種調査、意見交換、研究成果の発表は以下のとおりである。

(1)オーラルヒストリー聞き取り調査

- ・2011年度：
フランス・レンヌ市（退役軍人）
英国・ロンドン市（退役軍人）
米国・ネバダ核実験場周辺（ヒバクシャ）
ハンフォード周辺（ヒバクシャ）

- ・2012年度：
インド・ニューデリー（反核運動家）
ロシア・モスクワ（核実験関係者）
ロシア・クルチャトフ（ヒバクシャ）
ロシア・アルマティ（反核運動家）
アルジェリア・アルジェ（反核運動家）
東京（福島からの避難者・メディア関係者）

- ・2013年度：
スペイン・パロマレス（ヒバクシャ、ジャーナリスト）
フランス・リヨン、ボルドー（退役軍人）
英国・リバプール（退役軍人）
仏領ポリネシア・パペーテ（ヒバクシャ）
ニュージーランド・オークランド（退役軍人）

これらの聞き取り調査において、各地のヒバクシャの実態、ヒバクシャ認定や補償、被ばく体験の継承を重点的に記録した。

(2)海外での資料収集

- ・2011年度：
8/27-9/1 シカゴ大学図書館
9/20-9/24 英国国立公文書館
- ・2013年度：
11/2-6 フランスの核実験に関する資料
仏領ポリネシア歴史資料館

上記の資料調査により、核保有国の核政策、核実験の実態、核実験の影響、冷戦期における旧ソ連の核戦争計画、放射能被害を受けた地域の汚染状況などに関する資料を収集した。

(3)意見交換

・2011年度

カザフスタン・アルファファビ国立大学教授、ユネスコ大使、

・2012年度

インド・ネール大学、ガンディー大学研究者、医師、歴史学者、物理学者

・2013年度

仏領ポリネシア、核実験被害者協会会長
マーシャル諸島、被ばく60周年記念式典へ参加した専門家

上記の意見交換により、ヒバクシャ・コミュニティにおける聞き取り調査に必要な情報や知己を得たり、世界のヒバクシャの歴史的・文化的背景を考慮した比較研究、包括的分析、ヒバクシャの国際的連携に向けた協力体制の構築を進めた。

(4)次世代への継承者育成

研究代表者及び研究協力者が所属する大学の学生はもとより、海外出張先のヒバクシャ・コミュニティにおいて、ヒバクシャ3世の世代に対して、被ばく体験の継承に必要な方法論を紹介し、ヒバクシャ3世が自身で家族や地域住民が直接経験した被ばくの記録を残す方策を示した。また各ヒバクシャ・コミュニティの学生を中心としたそれらの活動を支える指導者も置いている。

[育成の内容]

・オーラル・ヒストリー(口述史)をビデオへ収録

・調査結果公表への同意の得方、聞き取りの内容、記録・編集・データベース作成方法

(5)国際的連携構築

2012年3月1日ヒバクシャ・コミュニティの若者の連携構築のため、スカイプなどを利用した意見交換会を実施

参加者:

広島市立大学国際学部学生 12名、マーシャル諸島 The University of the South Pacific Majuro Campus 学生 14名

(6)講義・講演会

・2011年度

10/19 テアンザ大学環境学部

10/26 デポール大学宗教学部

10/27 シカゴ大学東アジア学学部

・2013年度

7/10 バルセロナ International Catalan for Peace

海外出張時に上記の講義や講演会で、学生への教育、研究成果の発表を行った。

(7)学会

・2011年度

11/2-11/5 国際科学技術社会論学会(米国)

・2012年度

9/12-9/14 National Nuclear Center of Kazakhstan (カザフスタン)

10/14-10/16 社会文化人類学国立研究所(アルジェリア)

10/19-10/22 国際科学技術社会論学会(デンマーク)

・2013年度

7/24-7/28 International Congress of History of Science, Technology and Medicine (英国)

これらの学会では、各界の研究者の発表から情報を得たり、意見交換を行った。

(8)展示会

・2011年度:

9/3-9/12 コーネル大学、ジョンハーテル・ギャラリーにて Nuke York, New York Exhibition

米国内の核に対する意識を象徴した1945年から現在に至るまでの印刷物、ラジオ・テレビ番組、映画、コンピューターゲーム、プログラムなどを展示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

Robert Jacobs, "Nuclear Conquistadors: Military Colonialism in Nuclear Test Site Selection during the Cold War," *Asian Journal of Peace-building* Vol. 1, Issue 2 (2013): 157-177: [査読付]

Robert Jacobs, "Hibakusha: Hiroshima, Nagasaki and Beyond," *Peace Now: Humanitarian Consequences of Nuclear War*, (Special Issue: November 2013) 16-18 [査読無]

[学会発表](計 8件)

Robert Jacobs, "Radiation and Social Cohesion: From Three Mile Island to Today," presented to "The Three-Mile Island Nuclear Crisis in Perspective: Analyses, Stories, Policies" Conference at Pennsylvania State University at Harrisburg, March 28, 2014, Harrisburg, PA, USA

Robert Jacobs, "The Impact of the Bikini

H-Bomb Test on US Popular Culture,” presented during the Hiroshima Peace Institute Fifteenth Lecture Series for the Citizens of Hiroshima, March 14, 2014, Hiroshima, Japan

Robert Jacobs, “Nuclear Culture: How it Shaped the United States in the Early Cold War,” presented at Seoul National University, September 3, 2013, Seoul, South Korea

Robert Jacobs, “The Global Hibakusha Project,” presented to the Transnational Nuclear Perspectives Colloquium at the 24th International Congress of History of Science, Technology and Medicine at Manchester, United Kingdom, July 2013

Robert Jacobs, “The History and Effects of Nuclear Weapon Testing on Communities Near to Nuclear Test and Nuclear Weapon Production Sites Around the World,” presented at the International Catalan Institute for Peace, July 11, 2013, Barcelona, Spain

Robert Jacobs, “The Inheritance of Trauma: Radiation Exposed Communities Around the World,” presented at Temple University of Japan, July 2, 2013, Tokyo, Japan

“Robert Jacobs, American Nuclear Discourse: Narratives and Counter-narratives,” presented to Glocal Studies Institute at Seijo University, June 29, 2013, Tokyo, Japan

Robert Jacobs, “Understanding the Bomb in the US, 1945-46: Nuclear Weapons Create a New World,” presented to the inaugural Hiroshima Peace Institute Nuclear Studies Working Group, June 27, 2013, Hiroshima, Japan

〔図書〕(計 2 件)

“Fukushima and the Shifting Conventions of Documentary—from Mainstream Broadcast to Social Media Netizenship,” with Mick Broderick, in, Judith Pernin and Camille Deprez, eds., *Defining Independent Documentaries? Case Studies in the Post-1990 Context* (Edinburgh: University of Edinburgh Press, 2014)

“Domesticating Hiroshima: American Depictions of the Victims of the Hiroshima Bombings in the Early Cold War,” in Urs Heftrich, Bettina Kaibach, Robert Jacobs and Karoline Thaidigsmann, eds., *Images of Rupture in Civilization Between East and West: The Iconography of Auschwitz and Hiroshima in Eastern European Arts and Media* (Köln: Böhlau, 2013)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

ロバート・ジェイコブズ (Robert Jacobs)
広島市立大学・広島平和研究所・准教授
研究者番号：60423969

(2)研究協力者

ミック・ブロデリック (Mick Broderick)
マードック大学准教授 (オーストラリア)